



**問1**

雲南市は、木次線存続を目的に利用者増加支援策として何か現在計画しているのか

答弁 政策企画部長

木次線活用推進協議会で、定期利用モニターを募集。大学、専門学校・木次線沿線の事業所を訪問し、8月末で19件の申請があった。木次線で遠足に行こうの募集で、毎年幼稚園などで応募をいただいている。

**問2**

木次線の駅には、駐輪・駐車場の整備がされていないが、今後整備する計画はあるのか

答弁 政策企画部長

駐輪場は全ての駅にある。駐車場は大東・木次のみ。今年度実施しているモニター調査の結果や利用状況を把握して必要な対策を行っていききたい。

**問3**

市外から通勤している市職員約80名の木次線と市バスの利用について、協力依頼を行っているか

答弁 政策企画部長

木次線応援企画として毎月1回、通勤での活用や助成事業の

活用の呼びかけなどを行い、組を強化している。職員が、公共交通機関をなくしてはならないという危機感を持ち、利用促進に取り組んでいきたい。

**問4**

通勤の市バス利用のため、雲南市役所にフレックスタイム制を導入してはどうか

答弁 総務部長

現段階ではフレックスタイムの導入は考えていない。現段階のバス時刻に合わせての通勤が公共交通機関の利用促進が必要であれば、今後は導入を考えていかなければならないと考えている。

**問5**

市長、副市長の木次線の利用はどうか

答弁 市長

掛合に住んでいるのでJRを使う機会が少ないが、先日、JR米子支社に伺った際に利用した。気分転換に木次線に乗ったり、積極的に利用するように心がけていきたい。

答弁 副市長

松江から普段は車通勤している。最近、宍道駅まで車で行って木次線で通うことをしている。目標は、週一回使いたいと思っている。

**問6**

指定避難所について、今後、施設設備の充実は考えているのか

答弁 防災部長

指定避難所は公共施設を指定している。災害危険区域外の公共施設・二階建の強固な建物をやむを得ず指定している場合もある。公共施設は本来の用途に応じて整備されており、全ての避難所で冷暖房・厨房・更衣室、ジェンダー用の多目的トイレなどが整っている状況ではない。現状の施設で、可能な限り要望に配慮した対応が出来るように努めていきたいと考えている。

**問7**

指定避難所の運営費用・人件費等の支払や、運営の事前協議はどうか

答弁 政策企画部長

運営経費で必要なものについては、人件費も含めて支払う。地域自主組織の中には自発的に夜間対応や災害備品の使用、炊き出しなどの実施をしていたり、いた所もある。これについては、実態を精査し、一定の経費で報いたい。

答弁 防災部長

自主組織などとの協議は十分ではなかったと反省している。今後、検証も含めて次に備えて協議したい。

**問8**

子育て世代の人口減少について、情報収集はしているのか

答弁 政策企画部長

人口の社会増の実現に向け、子育て世代に対して重点的に各種施策を展開している。市民アンケートで支援策が整っていると感じる割合は増加しているが、社会増には至っていない。これまで転出者に対してアンケート調査・聞き取りにより情報収集を行っている。今後は転出先の市町の支援制度を十分調査検討し、新たな支援策を構築する。

**問9**

コロナ禍における全業種への事業継続支援補助金の交付について

答弁 産業観光部長

国、県の取組、支援策も踏まえて市内経済の状況を正確に把握するため、事業者にアンケート調査を行い業況をしっかりと把握した上で、事業継続・業況回復の支援策を検討する。

答弁 市長

農業は、共済制度や所得補償が有る。市としては、農家の営農意欲を継続するため、支援策を検討したい。



WEBから  
皆様のご意見、  
お聞かせください!

## https://kajitani.site

梶谷よしひら後援会事務所 〒699-1113 雲南市加茂町東谷 1313  
発行責任者 梶谷佳平 電話・FAX 0854-49-6399



# 9月議会 所感

梶谷佳平

7月豪雨・8月の台風で、土砂災害・水害等で雲南市内の各所では、避難所が開設されました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。また、避難所運営・災害復旧に当たられた皆様には、心から御礼申し上げます。

私の今回の一般質問では、立候補当時から申し上げています“産業振興”も含め質問をしましたが、ここでは表面で書き表せなかった部分をご説明いたします。

## 1 木次線存続に対する提案について

木次線の存続では輸送密度（宍道駅から備後落合まで1日の利用者）が重要です。1987年は663人が2018年には200人です。

1. 木次線をテーマとした絵画・車窓風景写真の企画展
2. 学校の部活動などの遠征・大会への参加に利用
3. 保育園・幼稚園児の作品を車内に展示
4. 木次線をモチーフにした土産品の開発支援
5. 雲南市職員の木次線・市民バスの積極的利用

以上の提案を執行部に行いました。

## 3 指定避難所の運営に係る事前協議について

雲南市として”指定避難所運営マニュアル”は出来ているが、その事前説明が各自主組織となされてません。いつ起こるか分からない災害に対して、十分な事前協議を行う必要があります。

昨年12月議会で、大東町連坦地の除雪については、自主組織と雲南市が協議して取決めが行われている協議を、他の町の自主組織と行って欲しいと要望しました。

**その結果、本年度は各町で協議が計画され、加茂町では”除雪ボランティアの追加募集”が積極的に行われています。**

## 2 指定避難所への施設設備の拡充について

避難所設備の整備が十分に出来ていないのなら、県立大学に避難所開設等に係る助言ができる人材いるので、その意見を聞き自主組織と一緒に役につく施設整備計画を行って欲しいと要望しました。



災害の対策は、残念ながら”いつも手遅れ”の状態です。市民目線での備えが重要ですね。

## 4 子育て世代の人口減少対策について

1. 市外に出た子供たちが帰ってきてくれるため、奨学金の代位弁済制度の導入などを提案しました（企業が負担した場合、市がその一部を補填する）
2. 島根県育英会学生寮などへ市内企業同伴で出向き、市内企業への人材の確保が必要ではないかと考えています。



他市町からの寮生に雲南市の魅力をアピールできる良いチャンスであると思っています！

## 5 コロナ禍における事業継続給付金の再交付について



事業継続給付金が飲食・宿泊・運送・セーフティーネット対象者に今年春に実施されました。しかし一部の業種を除いて景況は良くないので、再度全ての業種に向けて事業継続給付金支援を行う必要があります。また、コロナ関連で借入した企業救済についても、来春から借入金の返済が始まります。多くの企業が苦境に立つ事が見込まれる中、雲南市として支援策が必要であると考えます。

**もしも市で対応出来ないのであれば、中小・個人事業主への支援の拡充を県に対して要請すべきであると提言を行いました。**